

CASIO

IDC-700J

取扱説明書

このたびは、本機をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
本書はお読みになった後も、大切に保管してください。

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2

本機の特長

- 電波時計（国内2局対応自動追跡機能付）
福島県「おおたかどや山」（40kHz）
佐賀県と福岡県の境「はがね山」（60kHz）
- 電波受信機能のオン / オフ切り替え
- 1か月カレンダー表示
- 六曜表示 / 六曜サーチ
- 西暦 / 元号表示
- センサーにより、温度・湿度を表示
- 生活環境お知らせ機能
- 時報機能

安全上のご注意

絵表示について
本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 危険** 死亡または重傷を負う可能性が大きい内容を示しています。
- 警告** 死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。
- 注意** 軽傷を負う可能性および物的損害が発生する可能性がある内容を示しています。

絵表示の例

- △記号は「気をつけるべきこと」(注意)を意味しています。
- ⊘記号は「してはいけないこと」(禁止)を意味しています(左の例は分解禁止)。
- 記号は「しなければならないこと」(強制)を意味しています。

警告

袋をかぶらない、飲み込まない

- 本機が入っていた袋をかぶったり、飲み込んだりしない。
窒息の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

電池について

- 電池から漏れた液が皮膚や衣服についたら、きれいな水で洗い流す。
目に入った場合は、失明などの恐れがあります。洗い流した後、すぐに医師の診察を受けてください。
- 乳幼児の手の届く所に電池を置かない。
お子様が飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

設置場所について

- 次のような場所に置かない、使わない。
火災・感電の原因となります。
 - ・湿気やほこりの多い場所
 - ・台所や加湿器のそばなど、油煙や湿気が当たる場所
 - ・暖房器具の近く、ホットカーペットの上、直射日光が当たる場所、炎天下の車中など本機が高温になる場所
- 不安定な場所に置かない、不確実な掛け方をしない。
落下・転倒時には、けがの原因となります。

分解・改造しない

- 本機を分解・改造しない。
けがの原因となります。

注意

電池について

- 破裂による火災・けが、液漏れによる周囲の汚染を防ぐため、次のことは必ず守る。
 - 分解しない、ショートさせない
 - 充電しない
 - 新しい電池と古い電池を混ぜて使わない
 - 種類の違う電池を混ぜて使わない
 - 加熱しない、火の中に投入しない
 - 本機で指定されている電池以外は使わない
 - 極性(＋とーの向き)に注意して正しく入れる
 - 長時間使用しないときは、本機から電池を取り出しておく
 - 電池が消耗した場合は、速やかに電池を交換する
- 電池が液漏れしたまま使用しない。
火災・感電の原因となります。すぐに本機の使用をやめて「修理に関するお問合せ先」に連絡してください。
- 長く伸ばした爪で電池の着脱をしない。
けがの原因となります。

使用上のご注意

●使用環境や保管環境について
本機に強い衝撃を与えないようにご注意ください。また、下記の場所での使用や保管はおやめください。故障の原因となります。

- 極端な温度や湿度になる場所
 - 暖房器具の近くや直射日光が当たる場所
 - 自動車のダッシュボードの上
 - 浴室など湿気の多い場所
 - 使用温度の範囲を外れる場所
- 強い磁気を受ける場所
 - 磁石（磁気ネックレスを含む）の近く
 - スピーカーの近く など
- 塵やほこりの多い場所
 - 窓の近く
 - 出入口が常に開いている倉庫
 - 屋外 など

●保管方法について
長期間ご使用にならないときは、汚れや水分をふき取り、電池を取り出して保管してください。

●静電気の影響について
●静電気の影響を受けて、誤動作することがあります。
●極度に強い静電気は、本機の電子部品を破損することがあります。
●液晶の点灯していない部分に、一時的ににじみ現象が発生することがあります。

●電源について
●電池が消耗すると、下記のような誤動作が起こります。この場合は、長時間放置せず、速やかに新しい電池と交換してください(定期的な交換をおすすめします)。
- 時刻がずれたり、リセットされたりする
- 液晶表示の表示濃度が薄くなる
- 液晶表示が消える
- 報音が停止する

●正常に動作していても、1年に1回は電池を交換してください。消耗した電池を使い続けると、液漏れが発生することがあります。
●お買い上げ時に付属している電池は、充電式ではありません。絶対に充電しないでください。
●付属の電池は、時計の機能や性能をチェックするためのモニター用電池です。
●付属の電池は、お客様がお買い上げになるまでの期間に消耗します。取扱説明書などに記載されている電池寿命に満たない場合があります。また、電池交換は保証期間内でも有料となります。
●電池が液漏れを起こした場合は液に触れずにすぐにふきとってください。

●液晶表示について
●温度が0℃～40℃の範囲を外れる場所では、表示が見にくくなる場合があります。
●見る方向によって、表示が見にくくなる場合があります。

●受信する電波について
本機が受信できる電波は「日本の標準電波だけ」です。ただし、日本以外の地域で使用している場合でも、まれに日本の標準電波を受信して自動的に日本の時刻に修正することがあります。日本以外の地域でご使用になる場合は、本機の電波受信機能をオフ（電波受信の動作を行わない状態）にしてください。

●センサーなどの計測機能について
測定値は目安としてご利用ください。

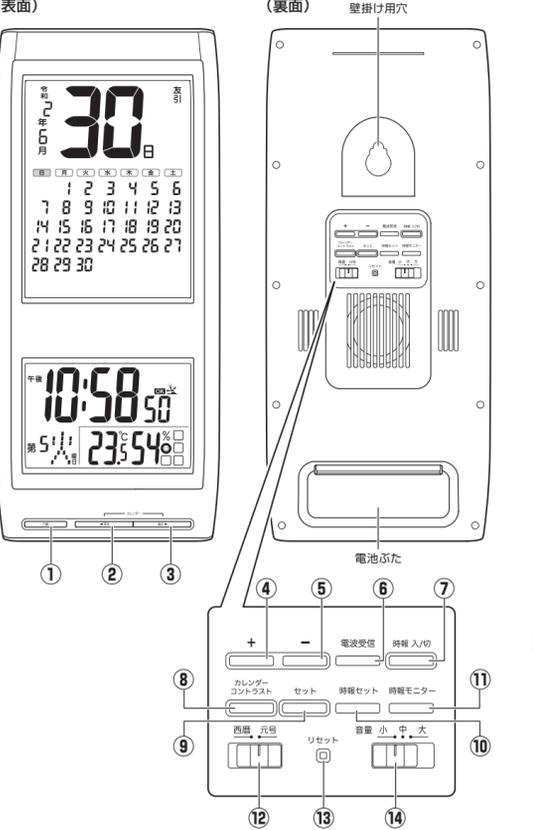
●お手入れについて
汚れは、乾いた柔らかい布が「中性洗剤に浸し固くしぼった布」でおふきください。シンナー・ベンジンなどの揮発油やアルコール類では絶対にふかないでください。

●電池や本機の廃棄について
お住まいになられている地区自治体の指示にしたがって廃棄してください。

●免責事項について
万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

各部の名称

●本書に記載している時計のイラストは操作説明用です。実際の製品とは異なることがあります。



注意
●ボタン操作は動作を確認しながら行ってください。連続で操作すると、動作が間に合わない場合があります。
●ボタンやスイッチ等を操作するときは、落下によるけがおよび器物の破損を防止するためにも、必ず本機を壁から取り外して操作してください。

本書の記載	説明
①【六曜】	「六曜（大安 / 赤口 / 先勝 / 友引 / 先負 / 仏滅）」をカレンダー上で確認するときに押します。
②【カレンダー戻る】	カレンダーを戻すときに押します。
③【カレンダー進む】	カレンダーを進めるときに押します。
④【+】	カレンダーや時刻などを変更するときに押します。
⑤【-】	カレンダーや時刻などを変更するときに押します。
⑥【電波受信】	すぐに電波を受信したいときに押します。
⑦【時報入 / 切】	時報のオン / オフを切り替えるときに使います。
⑧【カレンダーコントラスト】	カレンダーの表示濃度を調整するときに使います。
⑨【セット】	時刻を合わせるときや、設定項目を選ぶときに押します。
⑩【時報セット】	時報を鳴らす時間帯を設定するときに使います。
⑪【時報モニター】	時報の音を試聴するときに押します。
⑫【西暦 / 元号】スイッチ	カレンダーの西暦表示 / 元号表示を切り替えるときに使います。
⑬【リセット】	電池を入れたときに押します。正常に動作するように、時計を初期状態に戻します。 ●細い棒などで押してください。
⑭【音量小 / 中 / 大】スイッチ	音量を切り替えるときに使います。

表示について

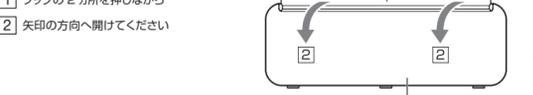


電池を入れて設置する

①時計に表示例シールが貼ってある場合には、シールをはがします。



②電池ふたを開けます。
① フックの2カ所を押しながら
② 矢印の方向へ開けてください



③電池を入れます。
注意
●電池はマイナス極から挿入してください。電池を取り出すときは、プラス極から外してください。
●単3形アルカリ乾電池(LR6) 2個

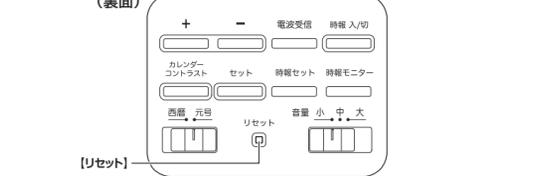


●重要
●極性(⊕と⊖の向き)に注意して正しく入れてください。
●新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
●種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
●本機で指定されている電池以外は使用しないでください。

④電池ふたを閉めます。
① ツメを本体のミゾにあわせて
② 矢印の方向に閉める

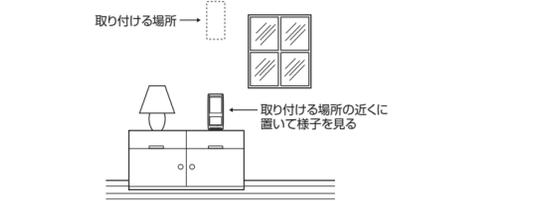


⑤【リセット】を細い棒などで押します（リセット操作）。



- 時計が「午後 12:00 00」から動き始めます。
- すでに時計が動いていても、リセット操作をしてください。

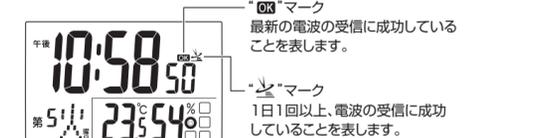
⑥時計を設置する場所の近くに置きます。



- 「午後 12:01 00」になると、自動的に電波受信が始まります。受信動作中は、受信インジケータが点灯 / 消灯します。
- 置いた場所が電波受信しやすいかどうかを受信インジケータで確認します。
- 電波受信が終了するまで時計に触らないでください。
- 電波受信が終了するまで最長で約 16 分かかります。
- 電波受信を中止したいときは、いずれかのボタンを押します。

⑦時計を設置する場所で、電波を受信できるかどうかを確認します。

●「電波を受信できたとき」
現在の年月日と時刻に修正し、「受信マーク」と「受信マーク」が点灯します。



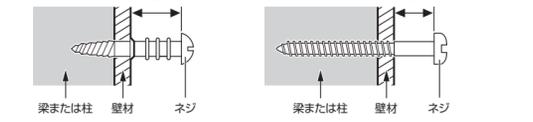
●「電波を受信できなかったとき」
年月日や時刻を修正しません。「受信マーク」と「受信マーク」は点灯しません。
●「電波を受信できないときは」をご覧ください。

⑧時計を設置する壁の状態を確認します。

- 掛け具は、しっかりと固定できる場所（梁、木の柱、木製の厚い壁など）に使用してください。しっかりと固定できない場所に使用した場合、時計が落下してけがや故障の原因となることがあります。
- 石膏ボード、コンクリート、薄い化粧ビニル板などには、必ず材質に適合した市販の掛け具をご使用ください。
- 掛け具を取り付ける際には、穴をあけるなど壁に傷をつける施工が必要になります。電波の受信状況を確認し、その場所に設置することを決めてから、取り付けてください。

⑨掛け具を壁に取り付けます。

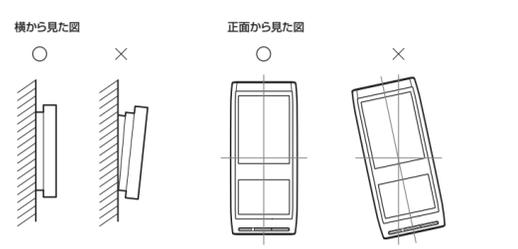
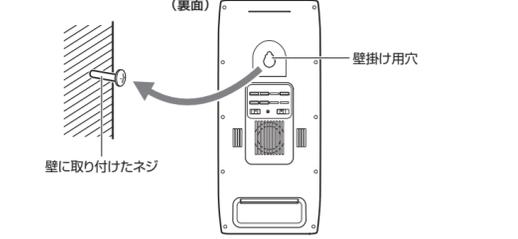
●付属のネジの場合（ネジの形状は製品によって異なります）



- 市販の掛け具をご使用になる場合は、使用する掛け具の取り付け方法にしたがってください。

⑩時計を掛け具に掛けます。

- 掛けた後、時計を上下左右、手前に軽く動かして、しっかり掛かっていることを確認してください。しっかり掛かっていないと、時計が落下してけがや故障の原因となることがあります。
- 水平位置も正しく合わせてください。



ボタンを押して電波を受信する

すぐに時刻を合わせたいときなど、必要なときにボタンを押して電波を受信します。

①【電波受信】を押すと、受信を開始します。

- 注意
●電波受信が終了するまで、時計に触らないでください。
- 電波受信が終了するまで最長で約 16 分かかります。
- 電波受信を中止したいときは、いずれかのボタンを押します。

②電波を受信できたかどうかを確認します。

電波を受信できないときは

- 一昼夜、時計をその場所に置いておきます。
昼間は電波が受信できなかった場所でも、夜間には受信できることがあります。電波の状況は、周囲の地形や建物、季節、天候、時間帯（昼 / 夜）などで変化します（「電波時計について」参照）。
- 定期的に、窓際などの電波を受信できる場所に時計を持っていき、ボタンを押して電波を受信します（「ボタンを押して電波を受信する」参照）。電波を受信した後、設置場所に戻します。
- 手動で時刻などを修正します（「ボタンを押して時刻などを修正する」参照）。この場合の時計の精度は、「製品仕様」に記載している「電波受信による時刻修正ができない場合」の精度になります。
- 時計の設置場所を、電波を受信できる場所に変更します。事前に、電波受信のボタンを押して、新しい設置場所で電波を受信できるかどうかを確認してください（「ボタンを押して電波を受信する」参照）。

ボタンを押して時刻などを修正する

電波が受信できないときなどに、ボタンを押して時刻を修正します。

- 1 **【セット】**を押して、時刻などを修正する状態（セット状態）にします。修正できる項目が点滅します。
 - セット状態で2〜3分間何も操作しないと、自動的に<通常表示>に戻ります。
- 2 **【セット】**を押して、修正する項目を選びます。**【セット】**を押すごとに、下記の順で修正できる項目が切り替わります。



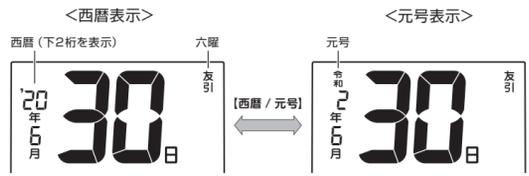
- 3 **【+】**または**【-】**を押して、年月日や時刻などを修正します。
 - <年セット表示>、<月日セット表示>、<時刻セット表示>のとき
 - **【+】**を押す：点滅個所の数字が進みます。
 - **【-】**を押す：点滅個所の数字が戻ります。
 - ボタンを押し続けると早送り / 早戻しができます。
- <時刻セット表示>のとき
- ボタンを押して分を進めた（戻した）タイミングで、「00」秒からスタートします。
- <12/24時間制セット表示>のとき
- **【+】**または**【-】**を押すごとに、時刻の表示方法（12時間制 / 24時間制）が切り替わります。
- 12時間制
午後には「午後」マークが点灯します。
- 24時間制
「24H」マークが点灯します。

- 4 **【セット】**を押して、<通常表示>に戻します。

カレンダー機能の使い方

西暦表示 / 元号表示の切り替え

- **【西暦 / 元号】**スイッチで表示を切り替えます。

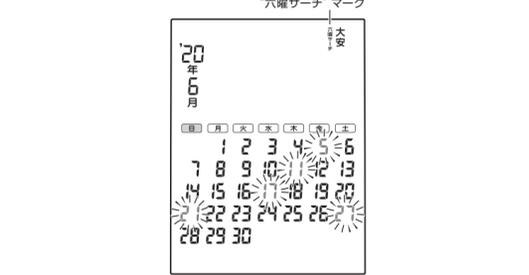


カレンダーの月めくり

- **【カレンダー 戻る】**・**【カレンダー 進む】**を押すと、カレンダーを月めくりで進めたり、戻したりできます。
 - 「カレンダーサーチ」マークが点灯します。
 - ボタンを押し続けると早送り / 戻しができます。
 - <通常表示>に戻すときは、**【カレンダー 戻る】**と**【カレンダー 進む】**を同時に押ししてください。
 - 2〜3分間何も操作しないと、自動的に<通常表示>に戻ります。

六曜を確認する

- 1 **【六曜】**を押すと、表示している月の「大安」の日が点滅します。
 - 「六曜サーチ」マークが点灯します。

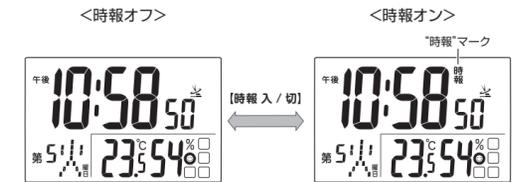


- 2 **【六曜】**を押すごとに、大安→赤口→先勝→友引→先負→仏滅→大安→…の日は点滅します。
 - 六曜表示のまま、カレンダーの月めくり操作ができます。
 - <通常表示>に戻すときは、**【カレンダー 戻る】**と**【カレンダー 進む】**を同時に押ししてください。
 - 2〜3分間何も操作しないと、自動的に<通常表示>に戻ります。

時報機能の使い方

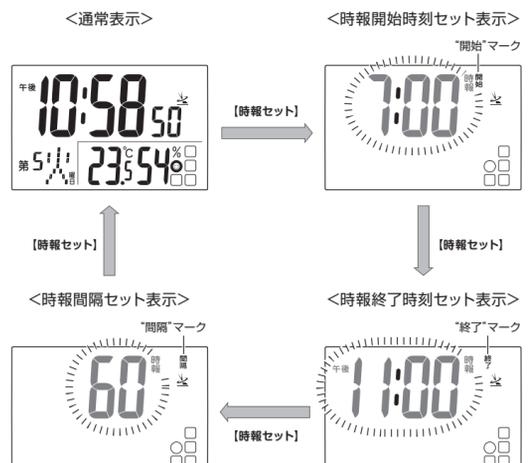
時報のオン / オフ

- **【時報 入 / 切】**で、時報のオン / オフを切り替えます。
 - 「時報」マークが点灯 / 消灯します。



時報の詳細設定

- 1 **【時報セット】**を押して、セット状態に切り替えます。
 - 【時報セット】**を押すごとに、下記の順で表示が切り替わります。
 - 各表示の点滅個所がセットできます。
 - セット状態にして設定変更の操作をすると、自動的に時報がオンになります。



- 時報の初期設定は、開始時刻：午前7時、終了時刻：午後11時、時報間隔：60分です。
- 終了時刻には、時報が鳴りません。
- 開始、終了時刻を同時刻にした場合は、24時間報知になります。
- 時報は、1、2、3、5、10、15、20、30、60分間隔で設定できます。
- セット表示で2〜3分間何も操作しないと、自動的に<通常表示>に戻ります。

- 2 **【+】**・**【-】**で、時報の開始・終了時刻や時報間隔をセットします。
 - **【+】**を押す：点滅個所の数字が進みます。
 - **【-】**を押す：点滅個所の数字が戻ります。
 - ボタンを押し続けると早送り / 早戻しができます。

- 3 **【時報セット】**を押して、<通常表示>に戻します。

時報の音量調節

- **【音量 小 / 中 / 大】**スイッチで、音量を調節します。

時報をためしに聞くには

- **【時報モニター】**を押すと、時報を1回聞くことができます。

時報の設定と電池寿命の関係

時報の設定により、電池寿命が短くなります。

時報の設定例とおおよその電池寿命

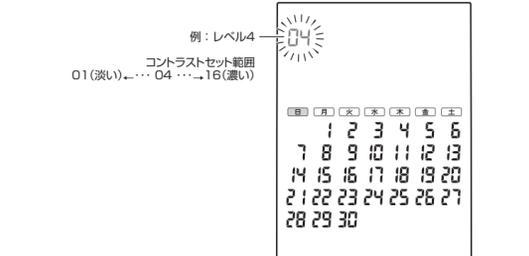
時報間隔の設定	1日当たりの報音時間設定	
	16時間	24時間
1分	10日	6日
5分	1.5か月	1か月
10分	3か月	2か月
30分	7か月	5か月
60分	1年	9か月

- 音量設定：【音量 小 / 中 / 大】スイッチを「中」にした場合です。

表示の濃さを見やすく調整する

カレンダー表示部分（上段）の表示の濃さを調整する

- 1 **【カレンダーコントラスト】**を押して、セット表示に切り替えます。
 - 現在設定されている表示濃度が点滅します。
 - セット表示で2〜3分間何も操作しないと、自動的に<通常表示>に戻ります。



- 2 **【カレンダー 戻る】**・**【カレンダー 進む】**で、濃度を調整します。
 - **【カレンダー 進む】**を押す：表示濃度が濃くなります。
 - **【カレンダー 戻る】**を押す：表示濃度が淡くなります。

- 3 **【カレンダーコントラスト】**を押して、<通常表示>に戻します。

時刻表示部分（下段）の表示の濃さを調整する

- **【ボタンを押して時刻などを修正する】**の手順2で<コントラストセット表示>を選んで調整します。
 - **【+】**を押す：表示濃度が濃くなります。
 - **【-】**を押す：表示濃度が淡くなります。

電波受信機能のオン / オフを切り替える

- 電波受信機能を解除するときは、<通常表示>のときに**【電波受信】**を8秒以上押し続けます。
 - 「受信オフ」マークが点灯します。

注意

- 「受信オフ」マークが点灯しているときは、電波受信による日付・時刻合わせをしません。「ボタンを押して時刻などを修正する」を参照して、手動で設定してください。

温度・湿度の表示と生活環境お知らせ機能

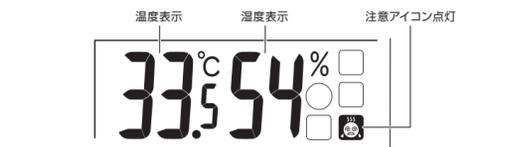
温度と湿度の計測データをもとにお部屋の状態を分析して、5つのアイコンでお知らせします。注意が必要な環境になると、4種類の注意アイコンが点灯または点滅して、注意のレベルを2段階でお知らせします。

アイコン点灯：注意

アイコン点滅：さらに注意

計測機能について

専門的な計測器ではありません。特に湿度計測につきましては、環境温度によって精度に開きがあります。計測機能は、目安としてお使いください。



注意

- アイコンは、手動で点灯 / 消灯できません。各アイコンの設定範囲から外れると、自動的に消灯します。
- アイコンが何も点灯しない場合があります（快適とはいえないが、注意アイコンは点灯しない環境です）。

各アイコンの意味と説明

アイコン	意味	説明
	快適な状態	原則として、温度 20 ~ 28℃ 湿度 40 ~ 60% の範囲のとき、表示されます。ただし、注意アイコンが点灯する環境では消灯します。
	「風邪引き」注意	風邪ウィルスが活性化しやすい環境のとき、表示されます。
	「乾燥肌」注意	肌乾燥（荒れ）に注意が必要な環境のとき、表示されます。
	「カビ・ダニ」注意	カビ・ダニが発生しやすい環境のとき、表示されます。
	「熱中症」注意	熱中症になりやすい環境のとき、表示されます。

- お知らせアイコンは、一般財団法人 日本気象協会との共同企画で開発しています。
- 一般財団法人 日本気象協会では生活に密着した気象情報を提供しています。詳しくはホームページ <https://tenki.jp/> をご覧ください。
- お知らせアイコンは、あくまで目安としてご使用ください（各お知らせアイコンが点灯または消灯していても安全性を保證するものではありません）。
- 万一、本機能により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社同様一般財団法人 日本気象協会でも一切その責任を負えません。ご使用の際は利用者の責任においてご使用ください。

製品仕様

水晶発振周波数：32.768Hz

表示内容：カレンダー
西暦表示（年・月・日・第何曜日） / 元号表示（年・月・日・第何曜日） / 六曜表示 *1
• カレンダーの表示範囲は、以下のとおりです。
西暦：2000年～2099年
元号：平成12年～令和8年
時刻表示（時・分・秒）、午後マーク / 24時間制表示（24H）、温度表示、湿度表示

電波受信機能：自動受信（7回 / 日）、手動受信
自動受信開始時刻 AM2:01、3:01、6:01、10:01
PM2:01、6:01、10:01
自動選局機能
【受信電波 長波標準電波 JJY】
周波数 40kHz/60kHz

精度：電波受信による時刻修正ができない場合は、平均月差±30秒以内

時報機能：時報時刻設定
時報間隔 1、2、3、5、10、15、20、30、60分

温度計測機能：計測範囲 0℃～40℃ *2
計測精度 ±2℃（0℃～40℃）*3
• 1分に1回計測します。 *4

湿度計測機能：計測範囲 10%～90%
（0℃～49.9℃において結果表示）*5
計測精度 ±10%（5℃～40℃）
（例 湿度 50%の場合、40%～60%となります）*3
• 1分に1回計測します。 *4

生活環境お知らせ機能：お知らせアイコン

その他：12/24時間制表示切り替え、コントラスト調整

付属品：壁掛け用ネジ

主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子、CMOS-LSI

使用温度：0℃～40℃

使用電池：単3形アルカリ乾電池（LR6） 2個

電池寿命：約1年
• 電波受信7回 / 日、時報（音量設定：中）16回 / 日使用した場合

- *1 六曜表示に関しては「暮らしに生かす旧暦ノート」著者 鈴木充広 氏の監修を受けて算出しています。
暦についてさらに詳しい情報を知りたい場合は、ホームページ「こよみのページ」 (<http://koyomi8.com/>) をご覧ください。
- *2 0.1℃以下、40.1℃以上でも温度を計測しますが、本機の温度保証範囲外となります。
- 20℃以下は「L0」表示、50℃以上は「H」表示となります。
- *3 温度・湿度表示は時計に内蔵されているセンサーにより、時計内部の温度・湿度を計測 / 表示するものです。そのため、急激な変化が起きても、その温度や湿度を表示するまで（時計内部がその温度や湿度と同じになるまで）約30分程度かかります。なお、計測機能上、本機を冷暖房器具の送風口の近くで使用しないでください。
- *4 電波受信中、カレンダーや時刻などのセット中は、計測を中断します。
- *5 9%以下は「L0」表示、91%以上は「H」表示となります。
湿度表示は温度が0℃～49.9℃の範囲外では「—」表示となります。

- ◆使用電池について
本機は、アルカリ乾電池の特性に合わせて設計されています。
• 充電式電池は、使用しないでください。初期電圧が低く、電池の特性が合わないため、使用すると本機が正常に動作しない、または電池寿命が極端に短くなる場合があります。

改良などのため、仕様は予告なく変更されることがあります。

電波時計について

電波時計とは

正確な時刻情報 [日本標準時] をのせた標準電波（JJY）を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。

日本標準時：日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。

標準電波を正しく受信した場合でも、時計内部の時刻演算処理などによって時刻を表示するまでに1秒未満のずれが生じます。

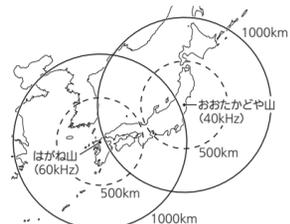
標準電波

標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県の「おおたかどや山」（40kHz）および佐賀県と福岡県の境の「はがね山」（60kHz）から送信されています。この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策などで一時送信が中断されることもあります。

電波の受信範囲の目安

条件の良いときは、送信所からおおよそ1000km離れた場所でも受信することができます。

- 約500kmを超えると電波が弱くなるので、受信しにくくなることがあります。
- 受信範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯（昼 / 夜）などによって受信できないことがあります。
- 電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

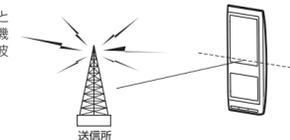


電波受信について

- 本機は「おおたかどや山」（40kHz）と「はがね山」（60kHz）の2局より受信しやすい方の電波を自動的に選択して、受信します（自動選局機能）。通常は毎日、自動的に電波を受信します（自動受信）。
- ボタン操作で現在時刻を修正すると、以後24時間自動受信は行いません。ただし、この間に手動受信を行うと、その時点で自動受信禁止を解除します。
- 電波受信を行わない間は、「製品仕様」記載の精度で計測します。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。
- 電波の自動受信は、1日7回（AM2:01、3:01、6:01、10:01、PM2:01、6:01、10:01）行います。
 - 下記の場合は、自動受信は行いません。
 - ・ 時刻 / カレンダーなどの「セット状態」になっている
 - ・ 電波受信機能をオフにしている

正しく電波受信するために

- 時計表示部または裏面に電波送信所と向かい合うように置いてください（本機に内蔵されている受信アンテナと電波送信所が垂直方向になるようにする）。
- 金属の上には置かないでください。



- 電波受信できる場所でお使いください（「使用場所について」参照）。
- 受信中（受信インジケータ点灯中）に時計を動かしたりボタン操作をしないでください。

使用場所について

本機は、テレビやラジオなどと同様に、電波を受信するものです。本機を使用するときは、「電波を受けやすい」部屋の窓際などでご使用することをおすすめします。以下のような場所では、電波を受信しにくくなります。

- ビルの中およびその周辺
- 乗り物の中
- 家庭電化製品、OA機器、携帯電話などの近く
- 工事現場、飛行場など電波障害が起きる場所
- 高圧線の近く
- 山間部、山の裏側